

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	家電量販店（店 長）	販売量の動き	・12月からの家電エコポイントのポイント数変更により、テレビの販売数量が駆け込みで増えている。
		一般小売店〔精 肉〕（店長）	来客数の動き	・今月に入ってから、客数が増加している。特に午後からの客数が多くなり、かなり忙しい時間帯がある。
		一般小売店〔書 籍〕（従業員）	販売量の動き	・学用必需品のノート、ファイル、筆記具のほかプラスチックの購入が多くみられる。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・猛暑・残暑の反動が大きく現れた月であった。客の買物の仕方に大きな変化はなく、安価なバーゲン品であっても吟味はしっかりしている。顕著なのは、まとめ買いをしないこと、クレジットカードの分割払いで買物をしないことなどである。
		家電量販店（店 長）	販売量の動き	・家電エコポイント縮小による駆け込み需要の影響もあり、来客数や販売数は増加している。また、家電エコポイント対象商品の販売数も増加している。
		住関連専門店 （店長）	お客様の様子	・新築や増改築などの客が増えてきた。
		タクシー運転手	来客数の動き	・月初はねりんピック2010石川大会（9～12日開催）のため、選手や応援団の会場への送迎や試合終了後の観光でますます良かった。それ以降は以前の暇な状態に戻った。
		通信会社（役 員）	販売量の動き	・テレビ・インターネット・電話のトリプルサービス契約を積極的に進めているなかで、インターネット及び電話を同時に契約する件数が増えており、特にインターネット契約は目標を上回り順調に推移している。
		通信会社（営業 担当）	お客様の様子	・携帯電話の販売数自体は伸び悩んでいるが、新規契約を求める客が多かった。実際、新規販売価格を実質0円に設定した端末が多く売れたため、買い控えをしていた客が0円に反応して伸びたと思われる。
		住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・今月は、ここ3か月では展示場来場客数が多かった。新商品の販売があったこともあるが、通常の新商品販売時の2倍以上の集客があった。
変わらない	変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子	・行政と商店街が共同で駐車場無料デーを実施したが、来街者数は増えても購買には結びつかなかった。財布のひもは相当固くなっているようだ。
		百貨店（営業担 当）	単価の動き	・前年と比較すると気温が2～3度高いので、ジャケットやコートなどのアウターの動きが悪い。特にコート類は前年と比べるとかなり売上枚数が減少しており、単価に大きく影響している。
		百貨店（売場担 当）	来客数の動き	・気温変化が激しく、秋物商品が動かない。
		スーパー（店 長）	お客様の様子	・相変わらず、自社ポイントカードのサービスデーに客が集中する傾向にある。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・来客数が3か月前と比較して伸び悩んでいる。
		スーパー（総務 担当）	来客数の動き	・必要なものしか購入しない傾向は変わっていないが、下旬に冷え込んだため客数が増加した。
		コンビニ（経営 者）	来客数の動き	・前月はたばこ特需で売上は上がったが、来客数は変わらなかった。今月は、たばこ需要が少ないものの、来客数に大きな落ち込みはなく、若干の減少に留まった。
		コンビニ（店舗 管理）	単価の動き	・たばこ増税の反動が大きく判断に苦しむ。通常月であれば20日以降の客単価が微増するが、それが見られない。
		衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・10月に入り寒さが感じられるようになり、単価の高い冬物商品にも動きが出てきた。
		衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・ようやく秋らしくなり秋物も売れ始めているが、予断は許さない。
		衣料品専門店 （経営者）	来客数の動き	・相変わらず来客数が少なく前年の85%程度に定着している。
		家電量販店（経 営者）	販売量の動き	・テレビの売上増加とともにDVDレコーダー及び番組を良い音で楽しむスピーカーシステムがよく売れている。
自動車備品販売 店（従業員）	単価の動き	・新規オープン店舗は集客も多かったが、限定品に集中して単価は低い状況である。既存店の動きも同様で単価低迷が続いている。		

	その他専門店 〔医薬品〕（営業担当）	単価の動き	・化粧品などの高単価商品は、5000円程度の高級品から3000円程度のライン商品へのスイッチが続いている。
	一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・たばこ増税、牛丼業界の低価格競争の影響か、平日ランチタイムが不調である。下旬から来客数は戻り始めているが前年の新型インフルエンザ流行の反動であり、前年割れの状況に変わりはない。石川県で開催された「ねんりんピック」の影響はほとんどなかった。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年同月比99%、宿泊人員は同102%、宿泊単価は同96%と前年並みの売上を確保した。14名以下の団体（個人含）が前年の81%、15名以上の団体が同121%と団体の取り込みができたが、その影響で宿泊単価が低下した。
	都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・宿泊とレストラン利用客の低迷が続いている。特に夜のレストラン利用客が減少している。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・企業・団体が円高などの影響で苦しみ、MICE市場の動きが活発化してこない。個人の海外旅行需要のみ前年をクリアしているが、団体に目立った動きが感じられない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・以前と比較すると通院にタクシーを利用する客が徐々に減少してきたが、最近是一段と減少している。
	通信会社（社員）	お客様の様子	・客との会話の中で、アジア向け輸出関連など良くなっている部分と、内需向け製造、素材など低迷が続いている部分の2極化が進行し、平均すると変わっていないという印象が強い。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・キャンペーンなどの手を打つとほぼ前年と同じ客数になるが、何もしないと客数は簡単に前年を5%以上落ち込んでしまう。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新規契約客数が3か月前と同数程度確保できている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅展示場の来場者数に依然として回復気配はない。管理先の折衝件数は増えているが受注額の増加までには至らない。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・フラット35Sの金利優遇の延長で客の動きに期待しているが、先行き不安ということもあり、借入金額を抑えて住宅計画をするように感じる。	
やや悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・平日の人通りが少ないなか、最近土曜日も平日並みに来客数が減っている。期待の日曜日に雨天だとまた人通りが減り、雨天に弱い商店街の対策が急務である。
	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・景気が良くならないため、文具など消耗品の買い渋り、買い控えがある。法人企業では、消耗品でさえ数社からの見積を取るなどしており厳しい。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・時間帯別で見るとすべての時間帯で来客数の低下傾向がみられる。特に夕方からの来客数が減少している。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・気温が低下し購入するものに変化がみられる。また、買物に出かける機会が減少している。
	スーパー（店長）	単価の動き	・上旬まではやや持ち直していたが、中旬ごろから、売上、客数、客単価、1品単価共に下落傾向である。客数が前年同月比99.0%、客単価は同97.0%という数字から、景気はまだ楽観できない。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・たばこ特需の反動が顕著である。たばこの売上は前年比80%を下回っている。総売上は、同93%台で半年前のレベルである。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・修理部門の売上は前年実績を上回り比較的好調に推移しているが、販売部門は新車購入補助金が廃止となり受注状況は極端に悪化している。前年比60～70%程度になっており先行きが懸念される。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・乗用車の販売量は前年同月比50%を下回っている。9月に新車購入補助金制度が終了した反動もあるが、この影響以上に落ち込んでいる。景気減退が懸念される。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・夏休み以降は苦戦を強いられている状況が続いている。医学系学会などのイベントがある時は料亭部門などが高単価の宴席で潤うが、長続きせず課題となっている。

	観光型旅館（経営者）	単価の動き	・宿泊予約の発生が遅く間際化しており、宿泊単価も安価なものに集中している。また、館内での二次消費もほとんど無い状況である。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門、レストラン部門は増加傾向にあるが、宴会部門は苦戦している。	
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・不要不急の旅行は、取りやめや日帰りに変更する傾向が強い。	
	通信会社（職員）	お客様の様子	・デフレの影響で、所得格差の拡大と中低所得者層の増加傾向が見受けられる。比較的高価格のものに若干の反応があるのに対し、低価格商品の提供にもかかわらず、ぎりぎりまで消費の決断を引き延ばす傾向が根強い。また、その判断基準価格もこの先低下する傾向にある。	
	テーマパーク（職員）	単価の動き	・前年まで総消費単価はほぼ変わらなかったが、今年の春以降、前年比で単価の下落が顕著に目立つようになった。特にこの2～3か月は、下げ幅が拡大し前年同月比10%以上の下落となっている。今月は大口の団体があったため、やや客数は伸びたものの、単価の下落があり、相殺し売上減となった。	
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売単価に変化は無いが、販売量が減少している。また以前と比較して契約までの商談時間も長くなっている。	
悪くなっている	コンビニ（店長）	それ以外	・9月のたばこ特需の反動により全体の売上の1割が前年比減少している。同時に、缶コーヒーなどし好品などのついで買いも減少している。たばこ以外も含め前年比15%前後の売上低下となった。利益率の高いコーヒー飲料などの売上が低下しているため厳しい状況である。	
	乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・同業者の集まりで意見を聞いたが、ほぼ全員が口をそろえて売上、販売台数の急激な落ち込みを訴えている。当社でも新規顧客が全く取れなくなってきた。	
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車が発売されたが、受注台数は予定を大きく下回った。客の話を聞くと景気状況が良くないので購入を先延ばしするようだ。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・景気は底だと感じていたが、さらに落ち込んでいる。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・実績的に最低だった前月よりさらに悪くなった。お金が回っていないぎりぎりの企業も多いとの声が聞かれる。今良いところも先々の見通しが立たないといった意見や目に見えて悪くなっているなどの会話もある。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	化学工業（総務担当）	取引先の様子	・金融機関の対応については良くなっている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・円高の影響で海外、特に米国の受注状況が悪いが、国内の引き合いが増えており受注につながっている。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・販売価格のさらなる下降傾向が顕在化した。しかし、単価が下がっても数量の伸びが無い。売上高の減少、販売単価の低下と食品メーカーにとっては非常に厳しい環境が続いている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ1～2か月は変わりはないが、年内の受注は確保している。しかし、末端の動きが悪い状況である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅市場が低迷しており、住宅市場向け製品が売上の8割を占める当社としては苦戦している状況が続いている。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月、前々月の展示会シーズンという季節的要因を除けば、受注量はほぼ落ち着き横ばい状況が続いている。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・荷動きが良くなり売上は増加しているが、利益率は低くトータルすると変わりがない。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・以前に比べて物や注文の動きは出ているようだが、円高の影響もあり、収益に明るさがなく、現状においては足踏みの状況になっている。
	司法書士	取引先の様子	・対税型特別清算手続きについての問い合わせが複数あった。	

やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今のところ受注量は確保できているものの、受注の勢いに陰りが感じられる。	
	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新規製品の受注が始まっている。一方、既存製品の受注量は激減はしていないが、年末に向け徐々に減少していくとの情報を得ている。	
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・会社よっての違いはあるが、元請け工事の受注がいまだにゼロの会社もあり、3か月前に比べて全般的に手持ち工事が減っている。	
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・ここ最近の円高などにより物の動きが鈍っている。新車購入補助金も終わり、車関連製品の荷動きが悪くなっている。	
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に聞くと、不動産取引については動く気配が見られないといった声が聞かれる。また、不安を抱えながらの営業を行っているところが多い。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・チラシの扱い枚数に大きな変化はないが、サイズが小さくなっている。	
	悪くなっている	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格競争がエスカレートするばかりである。受注最優先の価格提示がされ、採算の取れない入札、見積による受注が横行している。
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人情報誌一回の発行で、20件程度求人件数が伸びた。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・産休・育休代替要員での需要は発生しているが、景気回復による業務量増大が原因での求人はない。まだまだ見通しは明るくない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新設のコールセンターや業績が良い製造業などで一部の求人の動きがあるが、全体的には目立った増加が見られない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の出稿量は前年比8割となった。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・雇用調整助成金（休業）の計画提出件数が前月比で減少している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・5か月連続で新規求人が増加し、また、常用の求人も増加しているが、転職希望の在職求職者も増加しているため、依然として有効求人倍率は低い状態である。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介、派遣とも欠員補充はあるが、増員対応のための求人はまだ少ない。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は前年より上回っている。また、中小企業の採用が継続しているが、学生とのマッチングが難しくなっているようにみられる。	
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	